

令和4年度 しょうぶの里事業報告

I しょうぶの里（障害者支援施設）

1 総括

- 令和4年度も、新型コロナウイルスの施設内感染を阻止するため、さまざまな感染防止対策や必要な措置を取った結果、しょうぶの里では、入所の利用者さんと自宅からの通所利用者さんの陽性ゼロを維持できている。だが、グループホームあいりすでは、昨年8月、入居者6人中5人が陽性となるクラスターが発生、対応に当たった職員3人も陽性となった。
- この1年間、家庭への外泊・外出の再開ができず（※面会は、しょうぶの里玄関前や別室では実施）、さらに、ご家族や地域の方々、関係者などにお出でいただくしょうぶの里まつりなどの行事も中止や里内で利用者さんと職員だけの実施となり、利用者さん、ご家族ともにさみしい思いをされていることと思う。
- 外に出る行事や活動が制約を受け、しょうぶの里に閉じこもるストレスのたまる1年となったが、職員が里内でも楽しめる行事や活動をいろいろと工夫して実施してくれたことは大変よかった。
- 入所利用者さんについては、高齢化や体力低下に伴い、移動や食事、入浴、排泄等の日常生活で今までできていたことができなくなるなどで、より多くの支援や介護が必要となってきている。また、通院の回数等も年々増加傾向にある。
- ここ3年間、新型コロナウイルス感染拡大による短期入所・日中一時支援等の停止や通所生活介護の利用者減、グループホームの空き等により、収益が大幅に減少している。法人内の他事業所も同様で、令和4年度は法人の事業所全体でも赤字決算となった。法人運営費の繰入れや他事業所への補填などで、しょうぶの里では、施設改修の積立ができないだけでなく積立を取り崩さざるを得ない状況となるなど、経営状況が急速に悪化している。

2 利用状況

(1) 施設入所支援

- 定員30人（男性19人、女性11人） ※変動なし
- 入所待機者 59人（R5.3.31現在）

(2) 生活介護（日中活動支援）

- 定員40人（入所利用者30人、通所利用者10人）
- 通所の利用契約者数 13人（男性7人、女性6人）

年度	通所開所日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
令和4年度	245日	1,883人	8.0人
令和3年度	242日	2,152人	8.89人

※新型コロナウイルス感染防止のため、他所併用の利用者さんは、利用をしょうぶの里か他所のいずれかに絞っていただいているため、利用人数は以前よりも減少。

3 支援の実際

(1) 支援体制

- ・管理者 2 人、サービス管理責任者（支援員） 1 人、事務員 2 人、看護師（支援員） 2 人、支援員 14、支援員補助 4 人（非常勤）、管理栄養士 1 人、調理員 1 人、嘱託調理員 2 人・調理員補助 3 人

(2) 施設入所支援（夜間支援） 30 人

※1 年間をとおして、短期入所や日中一時支援の利用がほとんどなかったため、入所の利用者さんだけの期間が続いた。利用者さんにとっては、外に出られない不自由な生活の一方、短期入所・日中一時支援利用の方がいない静かな生活だったのではないか。

(3) 生活介護支援（日中活動） 40 人（入所利用者 30 人、通所利用者 10 人）

- ・入所、通所とも、人ごみを避けて外に出られない不自由な生活が続いた。

(4) サービスの提供時間

入 所	時刻	通 所
起床 洗顔 朝食 歯磨き	7:00	
部屋掃除 ラジオ体操 ウォーキング	9:00	迎え (8:40~) 到着後健康観察
午前の日中活動(アート活動ほか)	10:00	作業活動 入浴 ウォーキング ラジオ体操
掃除 昼食 歯磨き	12:00	掃除 昼食 歯磨き
午後の日中活動(アート活動ほか)	13:30	作業活動 (月・火) クラブ (水)
余暇活動 (土・日・祝)	14:00	里会 (木)
おやつ 入浴	15:00	おやつ 反省 送り (15:30)
夕食	17:45	
自由時間	19:00	
就寝	22:00	

4 4 年度の重点課題

(1) 日中活動の充実

[入所]

※①~④は、週目を表示

	月	火	水	木	金
	ウォーキング				
午前	アート活動	訪問歯科 室内クラブ (お話会)	畑作業	里会 爪切り	①③アート活動 / ②④花壇、清掃
午後	①③ビデオ鑑賞 (会議、研修会) / ②④体育の日	リズム体操	アート活動	①③合同クラブ / ②④合同活動	里内清掃 ビデオ鑑賞 (職員連絡会)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4 年度も、入所と通所の利用者さんが交わらないようにした。(合同活動も中止)

①アート活動

- ・アート活動は、しょうぶの里の看板だが、ややマンネリも感じられる。活動内容、実施方法等の工夫・改善に努めたい。1年間の成果発表会の設定や月ごとにテーマを決めるといった工夫を行っていく。

②「自由の旅」

- ・令和4年度は、コロナ禍の影響で1度も実施できなかった。

[通所]

リサイクル回収、カラオケ、ゲーム、野外活動、運動、里外活動、等

①リサイクル品整理作業（アルミ缶つぶし、古紙回収）の充実と工賃支給。

- ※平成30年12月から工賃支給。当初は、全員一律としていたが、令和3年度より、利用日数や作業への参加状況をもとに、工賃額を設定するように変更。一部の利用者さんのモチベーションが高くなった。

②わくわく活動（里外活動（月1回））

- ・新型コロナウイルス感染状況を見ながら、人との接触があまりない場所へ出かけたりした。

（2）質の高い支援の実施

- ・利用者さんへの言葉遣いでは、年上の方にきちんとした言葉遣いをするのを引き続き徹底したが、利用者さんに対して強い口調を聞くことがまだある。
- ・利用者さんの年齢・性別等に関係なく、「さん」付けで呼ぶことについては定着しつつある。

（3）安全管理と事故防止の徹底

- ・職員会議で、ヒヤリハットを報告することで、事故防止や安全意識が高まってきた。
- ・足もとが不安定な利用者さんが増えつつあり、移動時や入浴時などの転倒防止に努める必要がある。
※現在、介護歩行器を使用する利用者さんが4人、車イス利用の方が1人。
- ・誤薬防止では、服薬時の薬のWチェックを徹底しているが、後で利用者さんが吐き出したと思われる錠剤が落ちていたことが令和4年度もあった。

（4）健康・衛生管理の徹底

- ・朝食や昼食時の手洗いを徹底した結果、昨年度に続き、令和4年度もインフルエンザ罹患もゼロだった。しかし、利用者さんは常時マスク着用はしておらず、3月に入って風邪が流行して2週間程度、居室対応の期間が続いた。
- ・訪問歯科は、利用者さんの歯科治療や口腔衛生維持のため、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が多い時期にも来ていただくようにした。
- ・訪問リハビリは、個別のリハビリを受ける人が増加し効果が出ているが、新規感染者数の状況により、停止期間が続いている。
- ・加齢に伴い、動きが少なくなったり体力が低下したりして、通院回数も増加。病気に負けない体力づくりを進める必要がある。
- ・ストレッチやスクワットなど楽しくできる筋力アップトレーニングやリズム体操など体を動かす活動を実施。

(5) 安全でおいしい食事の提供

- ・バイキング・セレクト、リクエスト等、利用者さんのことを考えるとともに、栄養面をしっかりと押さえた安全でおいしい食事が提供されている。
- ・物価高騰により、食材や水光熱費が上昇中だが、食べることは、生活の基本であるだけでなく、外に出る機会が限られる利用者さんにとって一番の楽しみであり、食事のレベルを落とさないように努めている。

(6) 施設・設備の充実

- ・開設21年を経過し、施設設備の老朽化が進みつつあり、大規模改修や設備の更新が課題となっている。特にトイレ、浴室、洗面所などの水回りは改修時期に来ており、中でも浴室のスロープ・手すり設置等は、安全確保のため早期の改修が必要である。
- ・国の補助によりオンライン面会ができるWi-Fi環境が整備され、インターネットやYouTube視聴にも活用している。

(7) 家族とのコミュニケーション・連携強化

- ・新型コロナウイルスの第6波から第8波の感染拡大を踏まえ、年間をとおして、外出（自宅）・外泊を停止した。職員が書類の受け渡しなどご家庭を訪問する際に利用者さんも同乗するなどして面会ができるようにしたり、画像入りのハガキを出したりするなどして、家庭とのつながりが切れないよう努めた。
- ・昨年度に続き、入所の家族会は1度も開催できず、しょうぶの里まつりも中止、面会や外出（自宅）・外泊停止のため、一度もしょうぶの里を訪れる機会がなかったご家族も多かったと思われる。
- ・オンライン面会ができるWi-Fi環境が整備されたが、希望が出たのは1件だけだった。

(8) 地域・関係機関との連携強化

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和4年度も、すべての地域行事が中止となった。
- ・町内会は、この1年、毎月の会合はなくなり、4月の総会も書面決議となり、地域とのつながりがまったくできない状況が続いている。

5 令和4年度の主な年間の行事

《年間行事》

4月	○春のピクニック (山鹿市 あんずの丘)	4/22	10月	○還暦のお祝い ○ハロウィーンパーティ	10/24 10/28
5月	○おやつバイキング ○テイクランチ (グループ) ○キッチンカー	5/26 5/11	11月	○秋のピクニック (山鹿市 装飾古墳館) ○アールブリュット展開会式	11/18 11/16
6月	○夏まつり (里内で) ○テイクランチ (グループ)	6/10	12月	○クリスマス&忘年会 (しょうぶの里内)	12/23

7月	○健康診断 ○七夕まつり&そーめん流し ○涼もう会	7/1 7/6 7/27	1 月	○書初め・新年会	1/11
8月	○白くまコンテスト ○テイクランチ (グループ)	8/17	2 月	○バレンタインデー ○健康診断	2/14 2/14
9月	○お月見会 ○キッチンカー	9/8 9/28	3 月	○ホワイトデー	3/14
○定例的な行事 誕生会・ダンス (月1回) 訪問歯科 (週1回) 訪問リハビリ (週1回) ※新型コロナウイルス感染拡大により停止中。					
○「自由の旅」……年間を通して1回も実施できず					
○育成会本人部会「つなごう会」 ※8回実施されたが、すべて不参加					
○育成会大会 ※市8/20、県7/26 いずれも不参加					
○地域行事 ※すべて中止					
○その他の行事					
済生会夏祭り、ゆたか学園夏祭り ※中止					
平成ふれあい祭、ふれあい感謝の集い ※中止					
希望荘作品展 ※作品の出展。通所が見学。					
○アールブリュット開会式(11/16) ※代表2人が参加。					

6 職員研修計画

4月	新型コロナウイルス感染予防対策	10月	※B職員階層別研修
5月	個別支援計画とは	11月	※育成会職員全体研修会
6月	水害等の災害避難、BCP	12月	※C職員階層別研修
7月	しょうぶの里、法人のSWOT分析	1月	意思決定支援とは
8月	看護師による感染予防対策講義1	2月	意思決定支援に関するグループワーク
9月	看護師による感染予防対策講義2	3月	※中止

7 施設運営に関する行事

- ・職員会議 毎月1回
 - ・職員研修会 毎月1回
 - ・熊本市手をつなぐ育成会全体研修会 年1回 ※11月実施
 - ・家族会 (家族会、総会、役員会等) ※3月末に役員会を開催
 - ・施設運営委員会 3月
 - ・苦情処理第三者委員会 3月
 - ・虐待防止委員会 3月
 - ・避難訓練 毎月実施
- } ※中止
- 火災避難 (夜間想定訓練も)、津波避難、防犯 (不審者侵入) 等の訓練を実施。

Ⅱ しょうぶの里 短期入所・日中一時支援事業

1 総括

- 入所支援施設の場合、いったん施設内に新型コロナウイルス感染症が入り込めば、クラスター発生は不可避であり、感染防止を最優先にして外部の方の立ち入りを極力制限する必要があった。令和4年度は、年間を通して感染拡大が沈静化することがなったため、今日に至るまでの1年以上、短期入所・日中一時支援も受け入れ停止を続けている。ただし、親御さんの入院等、やむを得ない事情の場合は長期にわたり受け入れは行った。
- 短期入所・日中一時支援を必要とするご家族にとっては、しょうぶの里は大切な受け入れ先である。新型コロナウイルスの感染拡大により、受け入れ停止が続いたことで、ニーズに応えることができず、ご家族の介護負担が増大したことが心配される。
- しょうぶの里にとって、短期入所・日中一時支援は、在宅の保護者・ご家族の介護負担の軽減などのニーズに応えるとともに、経営上も非常に重要な事業であり、新型コロナウイルス感染の状況が見ながら、早期に受け入れを再開させたいと考えている。

2 利用状況（短期入所）

利用者延べ人数

年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
年間	684人	741人	982人	1,066人	954人	71人	192人	81人
1月	57人	62人	82人	89人	80人	・・・	16人	7人
1日	1.9人	2.3人	2.7人	3.0人	2.6人	・・・	0.5人	0.2人

※R1年度は、3月は新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れを停止。

※R2年度は、7月の1ヶ月間のみ受け入れ。

3 令和4年度の受け入れ期間

	期 間	対 応
3年度	1/15～ 3/31	全期間を通して 受け入れ停止
4年度	4/1～ 3/31	

Ⅲ グループホーム（共同生活援助）事業所

1 総括

- ・新型コロナウイルス感染防止対策については、しょうぶの里から、入居者と世話人全員に体温や日々の行動を記録する用紙を毎月配付して、もれなく記入するようにしている。ほかにも、入居者向けの図やイラスト、ルビを多用した見やすい掲示物を作成、配付・掲示するとともに、ホーム担当の職員や世話人を通じて、新型コロナウイルス感染防止への注意喚起を行ってきた。
- ・しかし、昨年8月、グループホームあいらすでは、入居者6人中5人が陽性となるクラスターが発生し、対応に当たった職員3人も陽性となった。
- ・居室の整理整頓・清掃、金銭管理、通院、生活のリズムを整えるなどのさまざまな課題には、世話人と連携・情報共有しながら対応している。特に、仕事や対人関係などの悩みの相談にも、世話人と連携して丁寧に対応している。
- ・世話人が高齢となり、退職の希望する人が出ている。代替りの人がなかなか見つからないが、少しずつ交替を図っている。

2 各グループホームの状況

	定員	利用状況	世話人	特色	備考
ぎんなん	10人 (男性5人・ 女性5人)	8人 ※男女空き 各1室	2人で 交替	・アットホームな雰囲気。 入居者が、調理や配膳 ・片付けの分担をはじめ、話し合いでルールや決まりをつくり、協力し合いながら自立した生活を送っている。	
千金甲	4人 (男性4人)	3人 ※空き1室	3人で 交替	・小規模なホーム。静かな 生活を好む人が多い。	・世話人交替 (1人新規)
あいらす	7人 (男性 7人)	6人 ※空き1室	3人で 交替	・一般の民家に6人が共同 生活。アットホームな よさがある。	・世話人1人 新規

3 令和5年度の課題及び対応

- ・入居者の加齢とともに、いずれのホームでも、徐々に通院回数が増加。付き添い支援が必要となってきた。歯科は、訪問歯科によりスムーズに治療ができるようになった。
- ・金銭管理では、引き続き、計画的な使用に向けて助言が必要である。
- ・部屋の掃除や片づけ等、日常生活に関することも、その都度助言を行っている。